

社団法人ニューガラスフォーラム第4回通常総会

社団法人ニューガラスフォーラムの第4回通常総会は、さる6月4日東京芝公園の東京プリンスホテル「高砂の間」で開催されました。

総会は、多数の会員のご出席を得、中島会長を議長として進められ、議案はすべて原案通り可決承認されました。

総会の議事をはじめとする当日の行事の概要と、平成2年度事業報告、平成3年度事業計画(案)を以下にご紹介させていただきます。

なお、退任のお申し出のあった五十嵐才吉氏、宇都宮綱之氏の後任として、池田 勉氏、細川宏一氏の理事就任のご承認を得ました。

総 会

日時：平成3年6月4日(火)

場所：東京プリンスホテル「高砂の間」

議事：(1) 開 会

(2) 議事録署名人名選出

(3) 議 案

第1号議案 平成2年度事業報告ならびに収支決算報告の件

第2号議案 平成2年度剰余金処分(案)の件

第3号議案 平成3年度事業計画ならびに収支予算(案)の件

第4号議案 役員承認の件

(4) 閉 会

講演会

総会終了後、同じ会場で講演会が開催されました。

講師：安井 至氏(東京大学生産技術研究所教授)

演題：世界のガラス産業に対する日本の貢献

懇親会

講演会に続いて、会場を「木広の間」に移して、懇親会が開催されました。

懇親会では、中島会長の挨拶に続いて、通商産業省生活産業局南学局長、京都大学作花教授からご祝辞をいただき、古本副会長の発声で乾杯のあと、多くの来賓、会員の方々がなごやかな懇談のひとつきを過ごされました。

平成2年度事業報告書

平成2年4月1日より 平成3年3月31日まで

I. 事業の概要

1. ニューガラスに関する産業及び技術開発動向等の情報の収集及び提供

(定款 第4条第1項第1号関係)

(1) 機関誌“NEW GLASS”の発行

ニューガラスに関する国内外の新製品・新技術の紹介、内外のニュース、関連産業の動向、技術解説等を内容とした機関誌“NEW GLASS”を4回刊行し、会員等へ配付した。

(2) 普及啓発用資料の作成

本会の設立目的、事業等についての理解を得るとともに、ニューガラスの普及啓発を図るために、和文および英文のパンフレットを作成した。

2. ニューガラスの産業及び技術開発等に関する調査研究

(定款 第4条第1項第2号関係)

(1) 我が国産業構造の高度化に及ぼすニューガラスの波及効果に関する調査研究

通商産業省から、「平成2年度無機新素材産業対策（ニューガラス産業対策）調査研究」の委託を受けて、産業の裾野が広く、ニューガラスの応用の可能性が大きいと推定される分野のうち、建設の分野についてインテリジェントビルをモデルとして調査を実施し、その結果を報告書にまとめて提出した。

(2) ゾル・ゲル法ニューガラスに関する調査研究

アルコール協会から、アルコールの高付加価値的利用に関連した金属エトキシドの製造および利用技術に関して「ニューガラスの製造及び利用技術に関する調査研究」の委託を受け、金属エトキシドを出発原料とするゾルゲル法によるケイ酸塩系ニューガラスについての調査研究を行い、その結果を報告書にまとめて提出した。

(3) ニューガラスデータブックの作成

日本自転車振興会の助成を受けて、特許、論文等を情報源として、ニューガラスの研究開発に役立つ情報を収集し、これを基にデータ集を作成し、会員等の閲覧に供する体制を作った。

3. ニューガラスに関する講習会、講演会及び研究会等の開催

(定款 第4条第1項第3号関係)

(1) 研究会の開催

ニューガラスに関するニーズとシーズの出会いの場と討論に主眼を置き、個別テーマによる研究会を開催した。今年度は昨年度に引き続き下記の四つの研究会をそれぞれ数回ずつ開催した。

加工研究会

非線形光学材料研究会

ガラス材料設計研究会

コンポジットガラス研究会

(2) セミナーの開催

研究者、技術者等を対象に、ニューガラスに関する最新の技術開発動向等を紹介するセミナーを3回開催した。

平成2年8月 テーマ「ガラスの王様 石英ガラスに学ぶ」
平成2年11月 テーマ「ディスクとディスプレイ用ガラス」
平成3年1月 テーマ「ガラスと光」

(3) 講座の開催

1) ニューガラス基礎講座

ニューガラスの開発・利用に携わる技術者を対象に、従来のガラス技術をも含めたニューガラスの基礎と利用技術に関する講座を4日間にわたって開催した。

2) やさしいニューガラス講座

ニューガラスについて広く理解を得るため、「やさしいニューガラス講座」を4回開催した。

平成2年7月 テーマ「非線形光学効果の基礎」

平成2年11月 テーマ「ゾルゲル法の基礎」

平成2年12月 テーマ「ESRと振動スペクトルのガラス科学への応用」

平成3年3月 テーマ「非線形光学効果の評価方法について」

(4) 展示会の実施

平成2年6月に開設された「現代ガラスの博物館」に、会員の協力を得てニューガラスの展示を行っている。

また、新材料、新素材に関する展示会等に協賛し、ニューガラスの普及啓発を図った。

4. ニューガラスに関する国際交流及び協力

(定款 第4条第1項第4号関係)

(1) 国際ニューガラス合同研究会の開催

日本自転車振興会の助成を得て、ニューガラスの最新の研究事情、技術動向等について情報の交流を図り、併せて研究会活動の成果を広く公表することを目的として、平成2年12月に「国際ニューガラス合同研究会」を開催した。

また、「現代ガラスの博物館」の展示を活用し、普及啓発用資料の配布を行なうことにより、ニューガラスの知識の普及を図った。

(2) 国際ガラスデータベースの構築

昨年度に引き続き、ガラスの組成と物性のデータを世界的規模で収録し、ガラス材料の開発、利用に資するための「国際ガラスデータベース」の構築を行ない、その第1版を完成した。

また、これの普及を図るための説明会を2ヶ所で開催した。

本データベースには10万件余のデータを収録しており、世界各国での今後の活用が期待される。

5. ニューガラスに関する標準化・規格化の調査研究

(定款 第4条第1項第5号関係)

ニューガラスの評価方法の標準化

工業技術院から委託を受けて、ニューガラスの評価方法として標準化のニーズが高い基板ガラスの平坦度と表面欠陥の測定方法について調査を実施し、その結果をそれぞれ報告書にまとめて提出した。

6. ニューガラスに関連ある団体、学会及び研究機関との協力

(定款 第4条第1項第6号関係)

(社)日本セラミックス協会、国際ガラス会議、新素材関連団体連絡会その他内外のニューガラスに関連ある団体等の事業を相互に会員に紹介しあう等の方法により、事業の協力、相互の連携を図った。

また、学会、研究機関との意見交換の場として、若手懇談会を数回開催した。

II. 庶務の概要

1. 理事会

(1) 第14回理事会

平成2年5月29日開催し、下記事項につき審議・決定した。

- 1) 第2回通常総会提案議題審議の件
 - ・平成元年度事業報告ならびに収支決算報告の件
 - ・平成元年度剰余金処分(案)の件
 - ・役員選任の件

(2) 第15回理事会

平成2年5月29日開催し、下記事項につき審議・決定した。

- 1) 会長・副会長・専務理事選任の件

(3) 第16回理事会

平成2年10月19日開催し、下記事項につき審議・決定した。

- 1) 新入会員承認
- 2) 平成3年度事業に関し日本自転車振興会へ補助金要望書提出の件
- 3) 役員選任の件

(4) 第17回理事会

平成3年3月28日開催し、下記事項につき審議・決定した。

- 1) 平成3年度事業計画ならびに収支予算(案)審議の件
- 2) 役員選任の件

2. 事務局

(1) 事務所

引き続き下記に事務所を置いて、業務を行っている。

東京都港区新橋3丁目1番9号(日本ガラス工業センタービル 3階)

(2) 職員

事務局は、平成2年度末現在で、常勤役員1名、会員会社からの出向者5名、女子職員1名、臨時雇用1名、合計8名をもって構成している。

平成3年度事業計画（案）

平成3年4月1日より 平成4年3月31日まで

1. ニューガラスに関する産業及び技術開発動向等の情報の収集及び提供

（定款 第4条第1項第1号関係）

機関誌“NEW GLASS”の発行

ニューガラスに関する国内外の新製品・新技術の紹介、内外のニュース、関連産業の動向、技術解説等を内容とした機関誌“NEW GLASS”を4回発行し、会員等へ提供する。

2. ニューガラスの産業及び技術開発等に関する調査研究

（定款 第4条第1項第2号関係）

以下の調査研究を行うことにより、ニューガラス産業発展のための基礎資料とする。

（1）産業構造の高度化に及ぼすニューガラスの波及効果に関する調査研究

ニューガラスは、有望な新素材の一つとして、

- 1) 温暖化の防止など地球環境の保護
- 2) 人類の健康保持と安全の確保
- 3) アメニティの改善と生活の快適化

といった人類の共通課題への大きな貢献が期待されている。

平成3年度は、1) 温暖化の防止など地球環境の保護について、ニューガラスがどの程度貢献し得るか、貢献できるとすればその内容、程度、実現のためのニューガラスの課題は何であるかを明確にする。

（通商産業省からの受託を予定。）

（2）ゾル・ゲル法ニューガラスに関する調査研究

ニューガラスの代表的製造技術となるとと思われるゾル・ゲル法ガラス製造技術に関して、

- 1) オキシカーバイドガラス繊維の試作
- 2) 高分子フィルムへの酸化物コーティング膜の形成
- 3) 鉛複合ペロブスカイト薄膜の調製
- 4) バルク状の有機分子含有非晶質シリカ系光学材料の合成

等について基礎的な調査研究を行う。

（アルコール協会からの受託を予定。）

（3）アモルファス材料の超精密加工に関する調査研究

ニューガラスの有力な需要部門である精密機械部品や電子部品には厳しい寸法精度が要求されるため、超精密加工が不可欠であり、その技術の現状と研究開発の動向について調査研究を行なう。

（日本機械工業連合会からの受託を予定。）

（4）ニューガラスデータブックの作成

前年度にひきつづき、特許、論文等を情報源として、ニューガラスの研究開発に役立つ情報を収集し、特定分野のデータを使い易い形にとりまとめ、会員等へサービスする。

（日本自転車振興会からの補助金を予定。）

3. ニューガラスに関する講習会、講演会及び研究会等の開催

(定款 第4条第1項第3号関係)

(1) 研究会の開催

ニューガラスに関するシーズとニーズの出会いの場を目指し、下記の4つの個別テーマについて研究会を開催する。

1) ガラスエンブリオ研究会

ニューガラスの新しい芽になり得るようなテーマをとりあげ、ガラスの新しい可能性を探る。

2) オプトエレクトロニクス・フォトニクス研究会

情報伝達の一層の高速化、高密度化をはかるため、光を情報伝達の媒体としたオプトエレクトロニクス・フォトニクスの発展が期待され、ガラス材料の重要性が高まる。

3) コンポジットガラス研究会

ガラス系複合材料は、ナノレベルからモレキュラーレベルの複合化も比較的容易で、先端的技术を支える高性能材料として期待されている。

4) 加工研究会

ニューガラス製品の用途多様化・多機能化・高性能化に伴い、必要とする部品形態・加工精度・加工品質を確保する高度な加工技術が要求されている。

(2) セミナーの開催

研究者、技術者等を対象に、ニューガラスに関する最新の技術開発動向等を紹介するセミナーを開催する。

(3) 講座の開催

前年度に引き続きニューガラスの研究者・技術者を育成するための「ニューガラス基礎講座」を開催する。

また、文科系の調査・企画担当者等を対象とした「やさしいニューガラス講座」を開催する。やさしい講座では、テーマとして「ハイテクカーとニューガラス」、"インテリジェントビルとニューガラス"等を考えている。

(4) 展示会の開催

「現代ガラスの博物館」にニューガラスの展示を行う等、ニューガラス産業の普及啓発を図る。

(5) 見学会の開催

会員のニューガラスの知識向上を図るため、先端研究機関等を訪問する見学会を行う。

4. ニューガラスに関する国際交流及び協力

(定款 第4条第1項第4号関係)

(1) 国際シンポジウムの開催

ニューガラスの技術動向並びに産業動向について意見交換を行うため、第3回ニューガラス国際シンポジウムを東京で開催する。

(2) 国際技術交流会議の開催

ニューガラスの評価技術、希土類元素等原料の安定した確保、開発途上国への技術移転等について国際的交流を推進するため、国際技術交流会議をアメリカで開催する。

(日本自転車振興会からの補助金を予定)

(3) 国際ガラスデータベースの構築

昨年度末に完成した「国際ガラスデータベース 第1版」の提供業務、並びに今後の改版に備えてデータの収集・蓄積を行なう。

5.ニューガラスに関する標準化・規格化の調査研究

(定款 第4条第1項第5号関係)

(1) ニューガラスの評価方法の標準化に関する調査研究

ニューガラスの評価方法として標準化のニーズが高い下記2件について調査研究を行う。

1) 表面欠陥測定方法

2) 有機溶剤等に対する化学的耐久性測定方法

(通商産業省からの受託を予定。)

(2) ニューガラス評価方法の JIS 原案の作成

ガラス基板のシリカコート膜の付着強度の試験法について JIS 原案を作成する。

(通商産業省からの受託を予定。)

6.ニューガラスに関連ある団体、学会及び研究機関との協力

(定款 第4条第1項第6号関係)

(社)日本セラミックス協会、国際ガラス会議、新素材関連団体連絡会その他内外のニューガラスに関連ある団体、学会及び研究機関の事業に協力し、相互の連携を図る。

また、学会、研究機関との意見交換の場として、若手懇談会を開催する。

